



かどや通信

第5号

発行日：平成26年4月

発行：かどや保存会

発行責任者：清水 久行／編集：廣野 克子

かどやの座敷に笑いが満ちた

“わ”楽寄席で林家染弥さん熱演



プロの噺家・林家染弥さんの独演会“わ”楽寄席（主催：南勢志摩文化創造“わ”

の会）が二月二十二日、かどやの座敷で開催され、五十人を超える鳥羽および近在の方々が笑いを求めて集まった。

三重県亀山市出身の染弥さんは、一九九四年に四代目林家染丸さんの門下となり、二〇〇四年には「なにわ芸術祭 落語部門」で新人奨励賞を受賞。古典から創作まで幅広くこなす実力派だ。特に染丸ゆずりの女性の演じ方には定評があり、本年九月には上方林家の大名跡「菊丸」を百十五年振りに襲名する。今

回の寄席は、その襲名を記念して開催されたもの。

私服でかどやに到着した染弥さんは、腰が低くて礼儀正しい好青年で、芸人さんとは思えない地味な雰囲気だった。ところが、和服に着替えるやいなや、華やかなオーラを発し、半畳ほどのにわか作りの高座では名跡を継ぐ噺家らしい堂々たる輝きを放っていた。

演目は、「道具屋」と「子別れ」。この時期かどやでは「鳥羽の雛人形展」と称して江戸・明治・大正・昭和のお雛様が展示されていた。これを見た染弥さん、当初は一般受けしやすすい「動物園」を考えていたそつだが、「旧家に飾られているお雛様を見て『道具屋』がぴったりのやと思て」と急きょ演目を変更。「道具屋」

を演じるのは久々だったそつだが、場の雰囲気を加味したプロの話芸はさすがだった。

「子別れ」では、得意の女房役も光り、人情味あふれる内容で優しい笑いが会場を包んだ。

その後、「染弥」さんの名前入り色紙が贈られるジャンケン大会も行われた。「染弥」と書けるのは今年九月まで。お宝になるかもしれないと声をかけたところ、ジャンケンにも熱がこもり、三人が貴重な色紙を獲得。最後まで笑いの絶えない演出で観客を魅了した。

笑顔で帰り仕度をする参加者達は「こんな地元で、本物の落語が聞けて、本当に楽しかった」と大満足の様子。鳥羽にも染弥ファンが急増したに違いない。



琴、オルガン、二胡、多彩なプログラムが魅力♪

かどや昼下がりにコンサート♪

かどや昼下がりにコンサートは毎月一回、日曜日の午後には様々なジャンルの音楽を楽しんでいただくこうと企画されたもので、昨年は四回開催された。

新年の第一弾は一月十二日にかつてのお正月には欠かせなかつた琴を主役に「新春によせて」琴弾き初め」と題して行われ、約五十名が参加した。

演奏は、伊勢正派松朋会小山社中の五名（小山雅楽汀さん、



藤堂雅楽 沙都さん、幸田華子さん、石井千恵子さん、松本京子さん（に八の百瀬



一山さんと西岡名さん、地唄舞の隅田恵理奈さんが出演する華やかなステージとなった。

琴と尺八による「春の海」に始まり、三弦と

地唄舞による「黒髪」や、「早春賦」「さくら」など初春にふさわしい八曲が奏でられ、参加者は日本らしいゆたかりとしたのかなお正月気分を満喫した。

♪ ♪ ♪ ♪ ♪

二月二十三日には「長尾オルガン 春を呼び、春に歌う」と題して、オルガン奏者の巽耕一さんとソプラノ歌手の大橋由紀さんの共演で、二十五曲が演奏された。

大橋さんは、「春よ来い」「ど



こかで春が」等の童謡や小学唱歌から「故郷の人々」「野ばら」等の世界の名曲、「川の流れのように」等の歌謡曲まで、幅広いパートリーを情感を込めて歌い上げた。巽さんは、フォスター作曲の「おおスザンナ」「草競馬」に加えてバッハ作曲「G線上のアリア」の3曲を独奏したが、三十九鍵しかない小さなオルガンとは思えないダイナミックな演奏で、二人の熱演に温かい拍手が贈られた。

♪ ♪ ♪ ♪ ♪

三月十六日は「春が来た来たコンサート」二胡とギターが春を呼び」がテーマで、約五十名が参加した。

出演は、二胡の教室を開いて



いる大橋庸子さんとギターの長尾和紀さんで、「朧月夜」「東京ブギウギ」「舟歌」「なごり雪」「雨のち晴レルヤ」等、唱歌から昭和の歌謡曲、現在のヒット曲まで、十五曲を演奏した。

元々は鍵盤楽器からスタートしたという大橋さんは、八十八鍵の大きなキーボードも持参し、「水のうた」等、自作の曲も披露した。

長尾さんは、伊勢を中心にソロの弾き語りや活動してきたそうだが、同級生の大橋さんと同窓会で再会してからコンビを組むようになったとのこと。コンビ歴は短いものの、実力ある二人の息はぴったりで、聴きごたえのある楽しい時間を演出してくれた

鳥羽の雛人形展

江戸・昭和のお雛様が勢揃い

「鳥羽の雛人形展」が、二月十九日から三月五日まで開かれ、江戸時代末期のものから昭和のものまで7組のお雛様が展示された。

大正時代に制作されたと思われる廣野家の御殿雛は、以前から二月には特別公開されていたが、今回は光岳寺(鳥羽二丁目)所蔵の鳥羽藩最後の城主・稲垣家のお雛様(左の写真や、幕末



から明治初期に作られたと思われる土路屋(木場家・下の写真をはじめ、旧鳥羽町で繁盛していた和菓子店の武蔵屋(浦田家)、



魚屋の魚熊(中村家)、クリーニングの小久保家、八百屋の清水屋(清水家)所有の雛人形が時代を超えて勢揃いした。

二月から三月にかけては、各地で様々なお雛様が展示されて話題を呼んでいる。それらに比べればかどやの展示は数こそ少ないものの、ご近所の方々の協力によって、このように時代の異なるお雛様が勢揃いするのは珍しい。「他ではなかなか見られません。いいものを見せてもらえました」と好評だった。

「かわいい」「すごい!」感嘆詞続出

友ちゃんの手芸作品展

友ちゃんこと吉田友子さんの手芸作品展が三月六日から二十八日までかどやの2階で開催され、約五十点が展示された。

かつて友ちゃんは野外を駆け巡るアウトドア少女だったが、十代後半に体調を崩してから強い頭痛に襲われるようになり、気分転換にと自宅で作る手芸を始めたのがきっかけだそう。愛犬をモデルにしたシュナウザー犬のぬいぐるみやコースターをはじめ、古着を利用した熊のぬいぐるみや手さげ袋をはじめ、のれんや壁掛けカレンダーなど作品は多種多様。圧巻はク



ロスステッチの作品群で、通販大手フェリスモのコンテストで優秀賞を受賞した

作品もある。

そのアイデアと仕事の精密さに、「わあかわいい」「すごいなあ」など、見学者からため息まじりの賞賛の声が上がっていた。

輝け!無名の達人達

かどやでは開館以来、和紙人形、写真、パッチワーク、押花アート、陶芸、そして今回ご紹介した手芸等々、様々な展示を行ってきた。

その度に「ええっ!あの人って、こんなことができるんだ!」と、普段の姿からは想像できない達人技に大感動した。

今回紹介した友ちゃんも、おとなしそうなごくごく普通の人なのに、作品を見てぶっ飛んでしまった。写真の犬のぬいぐるみがフェリスモの受賞作品だが、なんと1ミリ単位でクロスステッチがほどこされおり、そのひと針ひと針が丁寧で一分の狂いもない。まさに達人の技をこつこつと磨いていた人だったのだ。

ところが、これまで彼女の作品達は自宅に飾られていただけ。「私の作品を喜んで見てくださる人がいることが分かり、とても嬉しいです」と静かに話す友ちゃん。だが、見た人も身近にこんな素晴らしいものを作る人がいたとはとパワーももらったはず。

そんな無名の達人達の努力の結晶を紹介させていただけることは、かどやにとっても大変ありがたいことだ。あなたもかどやで、とっておきの技を披露してみませんか。

和菓子作りに挑戦!

「きよばあちゃんの手作りお菓子教室」が二月二十日に開かれ、十人が昔懐かしいげんこつ飴とかりん糖、豆乳プリン作りに挑戦した。



きよばあちゃんこと藤原きよさんはお菓子作りが得意。鳥羽市のイベントやお菓子の腕をふるってきた有名な人である。参加者の大半がきよばあちゃんのファンであり、それぞれも顔見知りのため、わきあいあいの雰囲気が始まった。げんこつ飴は、水飴と砂糖、黒砂糖、水を中火で溶かし、その後きな粉とスキムミルクを加えてよく練るのだが、冬は練り込む前に水飴が固まってしまうため力のいる作業だ。生徒達が悪戦苦闘していると、「かして



ない」ときよばあちゃん。八十年代とは思えない手際のよい力強い練り込みで、歯ごたえのよいげんこつ飴が完成した。かりん糖は、生地を発酵させるのに三十分ほど待たねばならないが、その間きよばあちゃんの若い頃の話も飛び出し、初対面も人も違和感なく話の輪が広がった。お菓子が完成すると、皆で試食をしたが、全て大成功。「次は桜餅か草もちを作りたいわ」と次回以降のリクエストも出て、好評の内にお開きとなった。

年明けは百人一首から

新年初日となった一月四日は、昭和の正月には子供達も楽しんで百人一首のかるた会を行った。大半は忘れてしまっていたものの、昔覚えた得意の上の句が読まれると、とすかさず手が伸びるなど、緊張感のある楽しさを味わった。

時間区分 部屋	午前	午後	全日	冷暖房設 備利用料
	10時~12時	13時~16時	10時~16時	
座敷南(10畳)	500円	600円	1,000円	500円
座敷北(8畳)	400円	500円	900円	—
仏間(6畳)	300円	400円	700円	—

- ・営利目的の場合は、料金表の10割増しとなります。
- ・鳥羽市民または市内勤務者以外の利用は、料金表の5割増しとなります。
- ・許可された使用時間を超過する場合は、割増料金が発生します。
- ・冷暖房費は、全日使用の場合は2倍になります。

◆◆◆貸部屋の案内◆◆◆
かどやを有効にご活用いただくこと、一部の部屋を貸部屋として貸し出しています。茶和会や勉強会、展示会などにご活用ください。詳細は、かどやへ。
電話〇五九九―二五八六八六

かどや保存会会員継続のお願い

平成26年度も会員として引き続きご支援賜りますよう、お願い申し上げます。
 本年の年会費(2,000円)は、継続・新規を問わず、以下の方法で納入ください。
 (1) 手渡し: かどやにお越しいただき、直接事務局にお支払いいただく。
 (2) 銀行振込: 郵便局 普通 かどや保存会 00850-4-151751
 三重銀行 普通 かどや保存会 2289016